

笠島プロジェクト

代表者 飯窪 蒼希（創発科学研究科 創発科学専攻 2 年）

1. 目的と概要

香川県丸亀市塩飽本島町笠島は江戸時代後期から昭和初期にかけての歴史的町並みが残された漁村集落であり、昭和 60 年に国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けて以来、伝統的建造物の修理・修景等の事業が進められてきた地区である。しかし、近年は人口の流出や高齢化によって将来の保存・活用に向けた後継者不足が大きな課題として挙げられている。そこで本プロジェクトでは、笠島地区における保存・活用に向けた活動を行うことで、少しでも多くの人に笠島を知ってもらうことを目的とする。併せて、歴史的に価値のある町並みを活かし、建築分野を専門とする学生にとっての学びの機会を提供することを目的とする。



笠島地区の様子(マッチョ通り)



笠島地区の様子(東小路)

2. 実施期間（実施日）

令和 6 年 4 月 1 日から 令和 7 年 3 月 31 日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

本プロジェクトでは主に、7 月の「虫送り」、12 月の「お正月準備イベント」、年間を通した「設計ワークショップ」を実施した。

「虫送り」は、農作物につく害虫を駆除し、その年の豊作を祈願するための行事である。笠島地区で行われていたのは 1960 年ごろよりも前であり、令和 6 年 7 月 6 日に当時の様子を再現するイベントが開催された。イベントでは、鐘を鳴らして練り歩きながら集

落の入り口にお札を刺して周り、最後は虫を乗せた小さな木船を岬の海で流した。イベントへの参加は、笠島地区の伝統行事を体験する貴重な機会となった。

「お正月準備イベント」は、令和6年12月7日に笠島地区の生活文化を体験する目的



使用した木船



木船を海に流す様子

で開催され、本プロジェクトでは運営の補助をしながらイベントに参加した。イベントは、プロジェクトメンバーや地域住民の方々の他にも、丸亀市職員の方や笠島地区内の改修工事に関わる建設会社の方、四国職業能力開発大学校の学生など多くの人が集まり、盛り上がりを見せた。内容としては、かつての秋祭りで使用されていた太鼓台の組み立てや住民の方と学生による炊き出し、住民の方に教わりながらのしめ縄づくりなどを行い、笠島地区に関わる多くの人達と交流しながら、笠島地区の生活文化に触れることができた。



太鼓台の組み立て



しめ縄づくり

「設計ワークショップ」は、創造工学部建築・都市環境コースと創発科学研究科の学生数名が参加し、笠島地区に在住予定の建築家の方の指導を受けながら大学の前期と後期の2回に分けて、各自が笠島地区内の民家の改修プランを提案した。参加学生は、現地調査やエスキス指導を経て学期末の講評会へ向けて準備を進めた。講評会は、建築家の方以外にも丸亀市職員の方や建築・都市環境コースの教員も参加し、それぞれから意見を頂いた。プロの建築家による指導や実務に関わる方からの意見は、参加学生にとって普段の授業では得られない貴重な経験になったと考える。



参加した学生ら



現地調査の様子

また、これらのイベントやワークショップの他に、本島町笠島まち並保存協力会の活動

の補助として、笠島に関するホームページの作成や空き家内覧会に向けた間取り図の作成を行ったことで、笠島地区内の空き家の活用対策に貢献することができた。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

笠島地区の保存・活用を進める上で、笠島地区と関わりを持つ人を増やすことや年中行事などの生活文化を継承していくことは重要である。「虫送り」では、プロジェクトのメンバーをはじめとした多くの参加者が、イベントへの参加を通してこのような行事が行われていたことを知ることができた。今後もこうしたイベントの運営や参加を通して、生活文化の継承に貢献していきたいと考える。また、「お正月準備イベント」では、普段の笠島地区の様子からは想像できないほどの人が集まり、盛り上がりを見せたことで、多くの参加者にとって笠島地区と関わる良い機会になったことが感じられた。

さらに、「設計ワークショップ」では、年次の異なる学生同士で共通の課題に取り組むことや現地に足を運んで実際の建物を見ながら改修プランを考えるといった、本学で建築を学ぶ学生にとって、普段の授業では中々得られない体験を提供することができた。

こうした本プロジェクトの活動は創造工学部建築・都市環境コースのホームページに掲載して頂き、本学への進学を希望する方にとっての一つの参考になるのではないかと考える。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

建築やまちづくりに関わる上で、そこに住んでいる人や営まれている生活について知ることは重要である。「虫送り」や「お正月準備イベント」で笠島地区の人々と交流し、生活文化に触れ、「設計ワークショップ」で笠島地区の建物について考えるという本プロジェクトでの活動は、建築を専門とする学生で構成されているプロジェクトメンバーにとって学びを得る良い機会であったといえる。

また、人口流出や高齢化による空き家問題は建築を学ぶ上で避けられない課題である。笠島地区は空き家問題の影響を顕著に受けている地域であり、本プロジェクトを通して笠島地区に関わることは、空き家問題にどう向き合っていくかを考えるきっかけになったのではないかと考える。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

「虫送り」や「お正月準備イベント」に関して、参加するのみに留まってしまったことは反省すべき点である。来年度以降は、より多くの人に笠島地区について知ってもらうため、SNS等での情報発信を図るとともに、イベントの企画や運営の段階から関わっていきたいと考える。特に、来年度は今年度から準備を進めていた空き家改修工事のワークショップを開催する予定であり、改修工事後の施設が笠島地区にとってより良いものとなるように尽力したい。また経費の執行に関して、今年度はやむを得ず空き家改修工事が実施できなか

った影響ではあるものの、配分予算と執行経費に大きな差額が生じてしまった。来年度以降で予算の配分がある場合には、予算の申請段階で綿密な年度内の活動計画を立て、より正確な執行経費を算出できるように進めていきたい。

7. 実施メンバー

代表者	飯窪 蒼希	(創発科学研究科 2 年)			
構成員	押谷 一樹	(創発科学研究科 2 年)	川嶋 伸岳	(創発科学研究科 1 年)	
	石崎 萌永利	(創造工学部 3 年)	内田 美咲	(創造工学部 3 年)	
	公文 梨瑚	(創造工学部 3 年)	田川 蒼真	(創造工学部 3 年)	
	春富 妃花	(創造工学部 3 年)	松野 百華	(創造工学部 3 年)	
	奥 菜々香	(創造工学部 2 年)	奥田 乃都香	(創造工学部 2 年)	
	坂本 心華	(創造工学部 2 年)	清水 瑠璃	(創造工学部 2 年)	
	月田 茉奈	(創造工学部 2 年)	西野 浩成	(創造工学部 2 年)	
	道本 孟宗	(創造工学部 2 年)	安葉 桜子	(創造工学部 2 年)	

8. 執行経費内訳書

配 分 予 算 額		1 4 4 , 3 3 0 円		
執行経費 (品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備 考
鉄道賃 (高松～丸亀)	6	1, 2 6 0	7, 5 6 0	
船賃 (丸亀港～本島港)	6	1, 0 7 0	6, 4 2 0	
レンタサイクル	6	5 0 0	3, 0 0 0	
合 計			1 6 , 9 8 0	